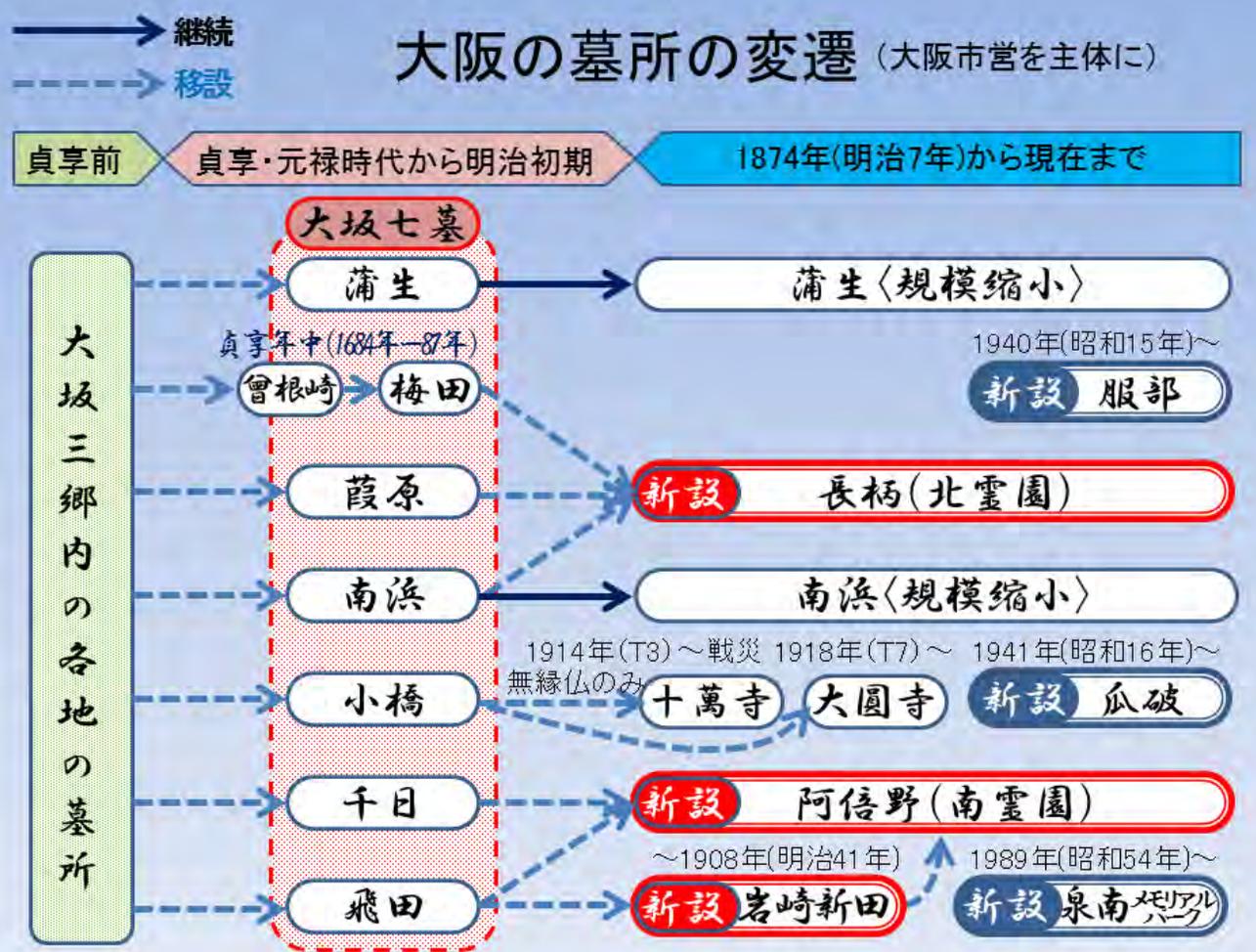


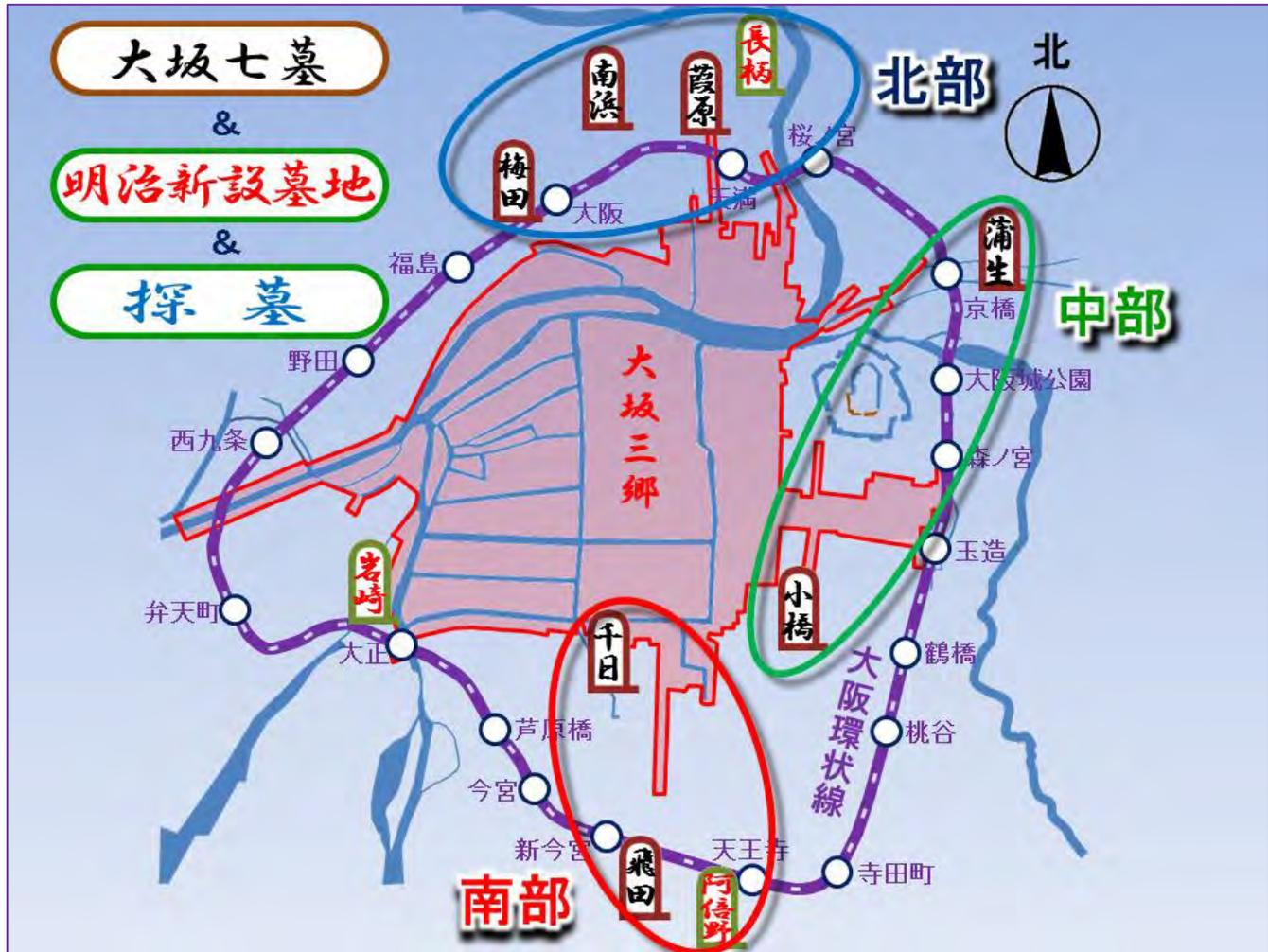


大阪府立大学大阪検定客員研究員

湯川敏男

大阪七墓「共」と「巡り」





①平成版大阪墓地巡り【北部】(梅田、南浜、葎原、長柄)

(如意山了徳院) (大阪駅前第一ビル) (旧曾根崎墓域) (曾根崎署裏)
 よなおし地蔵 — 梅田墓地跡 — 福永稲荷大明神 — ごて地蔵 —
 (阪急三番街) (「七はか道」碑) (南濱墓地北飛地) (天六交差点)
 北向地蔵尊 — 源光寺 — 南浜墓地 — 六地蔵 — 葎原墓地跡 —
 (太田診療所南) (長柄墓地)
 葎原・冲向地蔵尊 — 北霊園

②平成版大阪墓地巡り【中部】(蒲生、小橋)

(野江の七曲り北端) (東高津公園)
 野江の刑場 — 蒲生墓地 — JR京橋 — 鶴橋 — 小橋墓地跡 —
 (仏足 痔の石)
 傳光寺跡 — 十萬寺 — 大圓寺

③平成版大阪墓地巡り【南部】(千日、飛田、阿倍野)

(千日寺) (千日寺) (千日前通) (ビックカメラ) (アムザ1000) (松林庵)
 法善寺 — 竹林寺跡 — 黒門跡 — 長吏屋敷跡 — 刑場跡 — 三津寺墓地
 (溝の側筋) (ダ・オーレビル) (なんばオリエンタルホテル北)
 — 迎佛、無常橋跡 — 六坊跡、六地蔵跡 — 榎神社、榎龍王神社 —
 (なんばオリエンタルホテル) (味園ビル) (阿倍野墓地)
 祭場跡、焼場跡 — 灰山跡 — 飛田墓地跡 — 南霊園

大坂七墓と明治新設3墓



北部

南浜 長柄 葎原 梅田

中部

浦生 小橋

南部

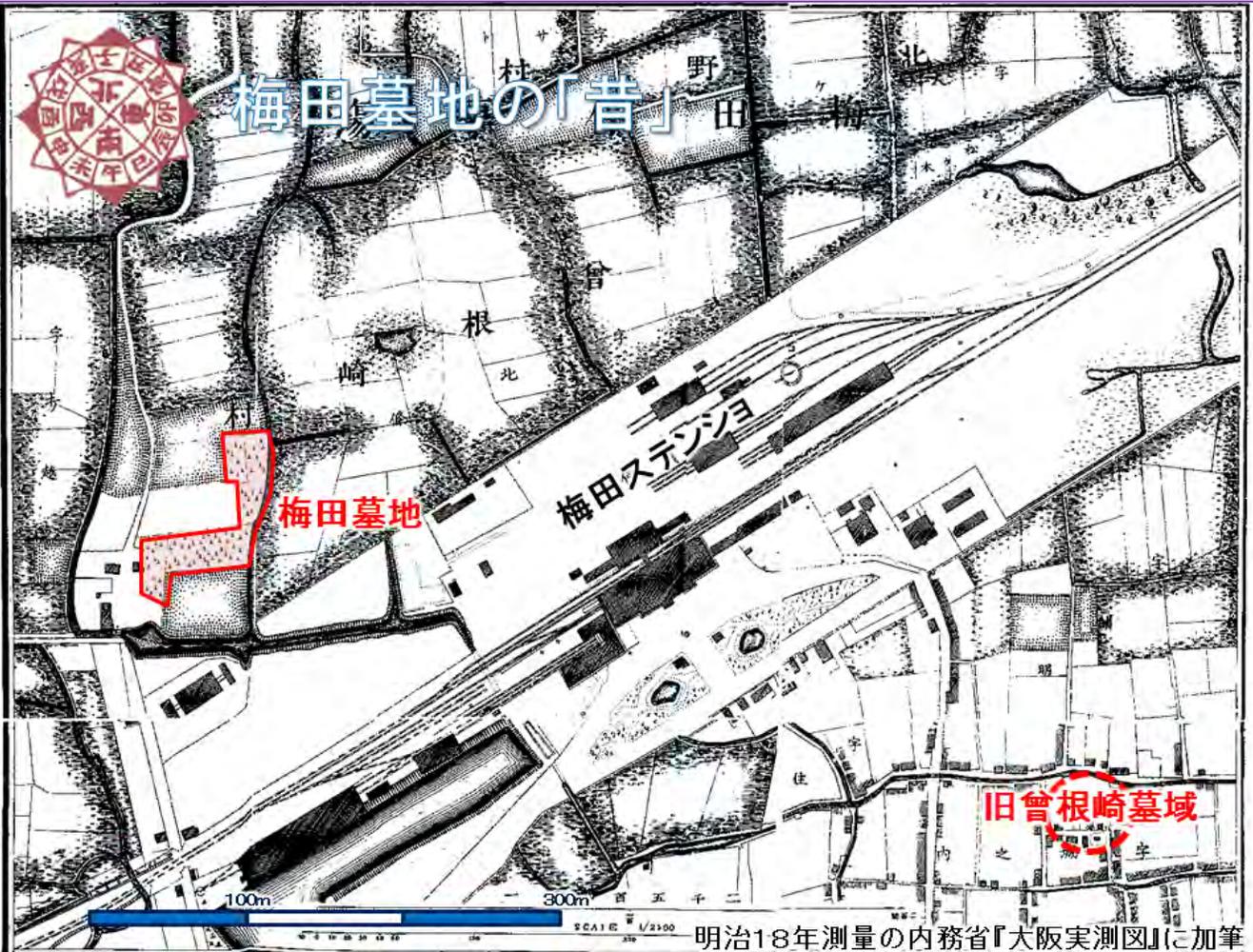
近鉄千日 飛田 阿倍野

- 【凡例】**
- : 大坂七墓
 - ◎: 明治新設3墓





梅田墓地の「昔」



明治18年測量の内務省『大阪実測図』に加筆



梅田墓地の「今」



OpenStreetMapに加筆

旧梅田墓所関連案内図

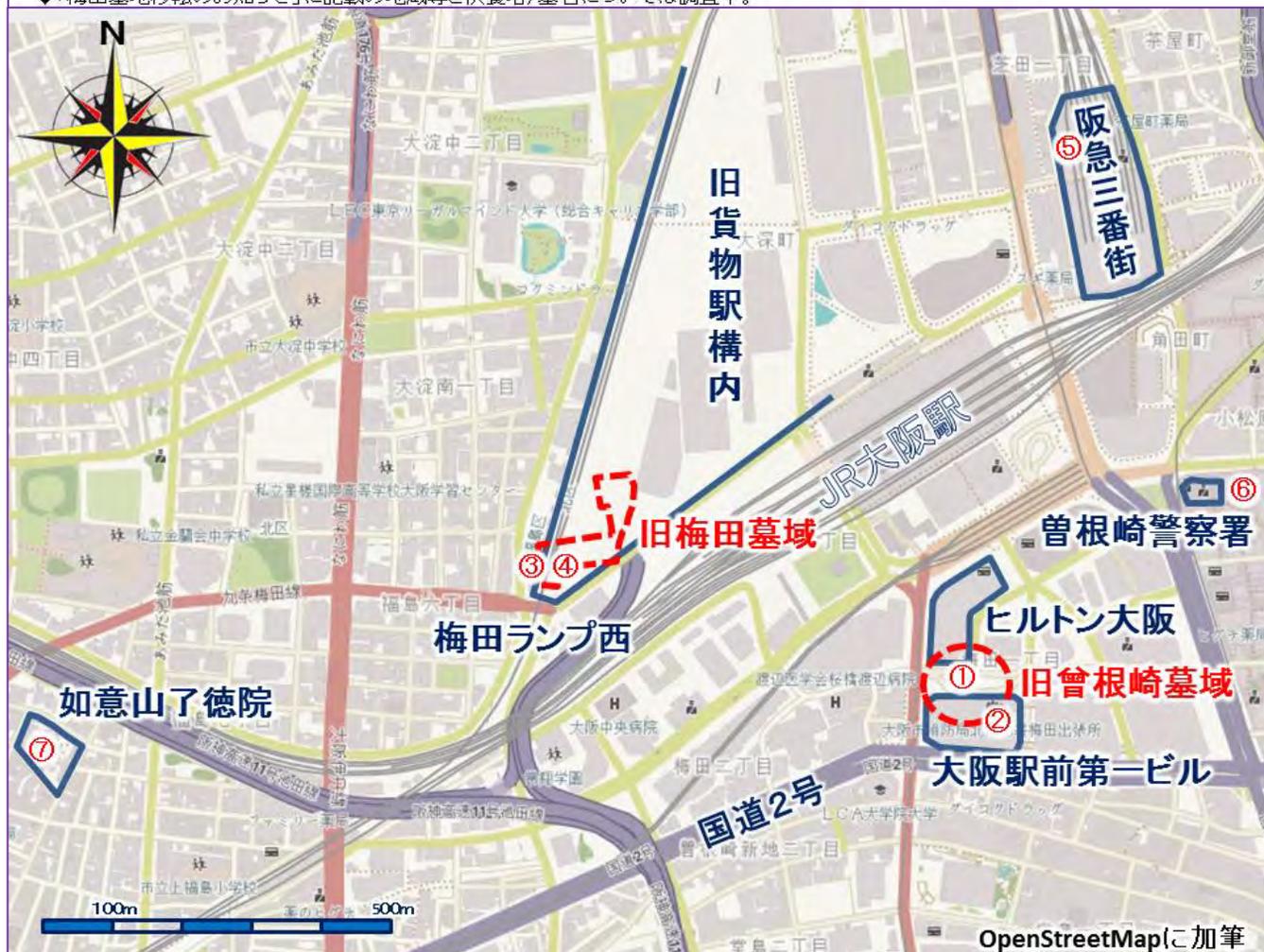


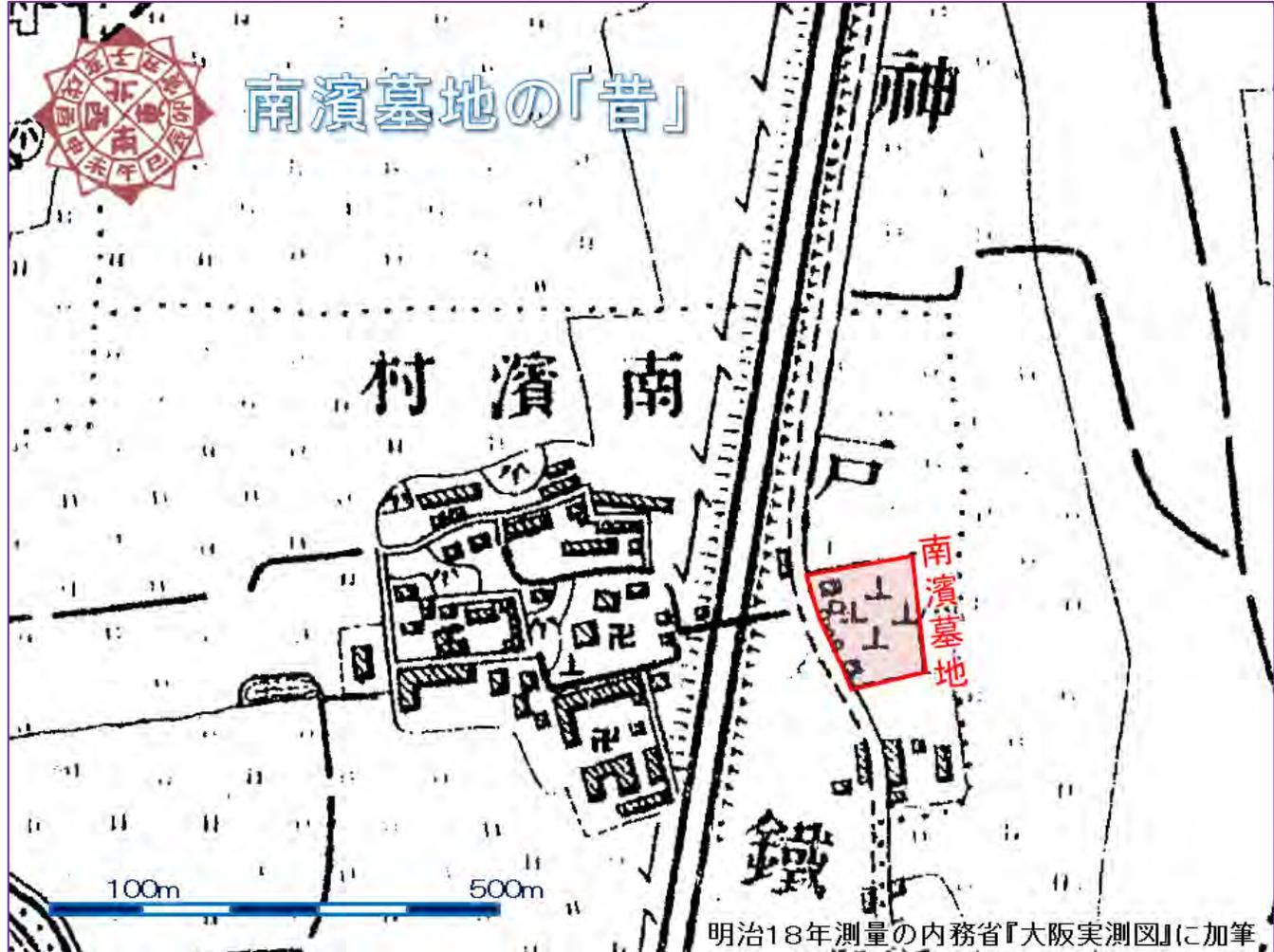
No.	旧史跡名	比定地の現在	概要
①	旧曾根崎墓域	ヒルトンと駅前第一ビル付近	当初、曾根崎村の田圃にあった墓地を、貞享年間(1684~87)に梅田へ移転。
②	正一位福永稻荷大明神	大阪駅前第一ビル屋上	旧曾根崎墓地の跡地の小高い丘にあった狐塚を祀った稻荷社。約600年の歴史。
③	旧梅田墓域	旧貨物駅構内と梅田ランプ西交差点付近	現在は④「梅田墓地移転のお知らせ」とおり再開発のため供養・移転済み。
④	梅田墓地移転のお知らせ	梅田ランプ西交差点付近	地藏尊⑤四天王寺地藏堂、供養塔/墓石⑥川西市稱名寺、遺骨⑦天王寺一心寺、鯉⑧堂島川。
⑤	北向地藏尊	阪急三番街地藏横丁	1891年(明治24年)、当地の畑より出現。北向きに祀ったのがはじまり。
⑥	ごて地藏	曾根崎警察署裏	昭和のはじめ、当地より出現の地藏を奉納。通称「ごて地藏通り」の由来。
⑦	よなおし地藏	如意山了徳院	1987年(昭和62年)梅田貨物駅跡地の地中2mより出現。1718年(享保3年)銘。

◆『摂陽群談』に以下の記載がある「梅田の墓所、はじめは曾根崎村の田圃にあり、大坂市店(中:筆者注)に近く、火葬の余烟、そのけがれを忌て、貞享年中、地を今の処に引しむと云々、然れば元禄以前に墓所は今の地に移した」

◆現在、浄祐寺にある忠臣蔵の矢頭長助と矢頭右衛門七の墓は元梅田墓地にあったものが移設されたものである。

◆「梅田墓地移転のお知らせ」に記載の地藏尊と供養塔/墓石については調査中。





南濱墓地(浜の墓所) 著名人墓所案内図



No.	区画	故人名	墓碑銘	人物について	没年	享年
①	甲1	龍田 善達	龍田善達南墓	江戸前期の儒学者。京堀川で「古義堂塾」開塾、その後大坂にて教導す。	1734(享保19).06.06	58
②	甲1	大塩家祖先墓	春岳、本覚、耀山、覚信院	3基あり、その中央墓裏面末尾に「大鹽平八郎誌且建」の記載あり。	1818(文政01).07.建	—
③	甲2	齊藤 鑾江(らんこ)	鑾江齊藤先生墓	江戸時代後期の儒学者。昌平黉で学び、大坂で開塾。	1848(嘉永01).08.13	64
④	乙3	菅原(滋岡) 至長	従四位下新羅少輔菅原至長朝臣	このグループは天満宮神主だった滋岡一族の墓。	1678(延寶06).04.23	88
⑤	乙4	菅原(寺井) 保氏	菅原保氏墓	このグループは天満宮神主だった寺井一族の墓。明治末に社家。	1776(安永05).09.15	45
⑥	乙5	島左近の娘	碧樹遷岸孺人墓	大阪天満宮社家寺井家5代目種定(たねさだ)の妻。孺人は夫人の敬称。	1697(元禄10).02.03	45?
⑦	丙1	猪名川 政右衛門	旭譽圓月岳映輝定門	池田市出身の江戸中期の開墾。1755年(宝暦5)藤島部屋入門、小結まで。	1800(寛政12).10.09	62
⑧	丙1	佐々木 志頭磨	佐々木志頭磨尊林先生塔碑銘并叙	江戸時代前期の弘法大師のく評判の書家。住吉大社の「志頭磨燈籠」。	1695(元禄08).01.19	77

甲3-10は主に滋岡氏、寺井氏、大道氏、大中臣氏、渡邊氏など大阪天満宮社家の墓所

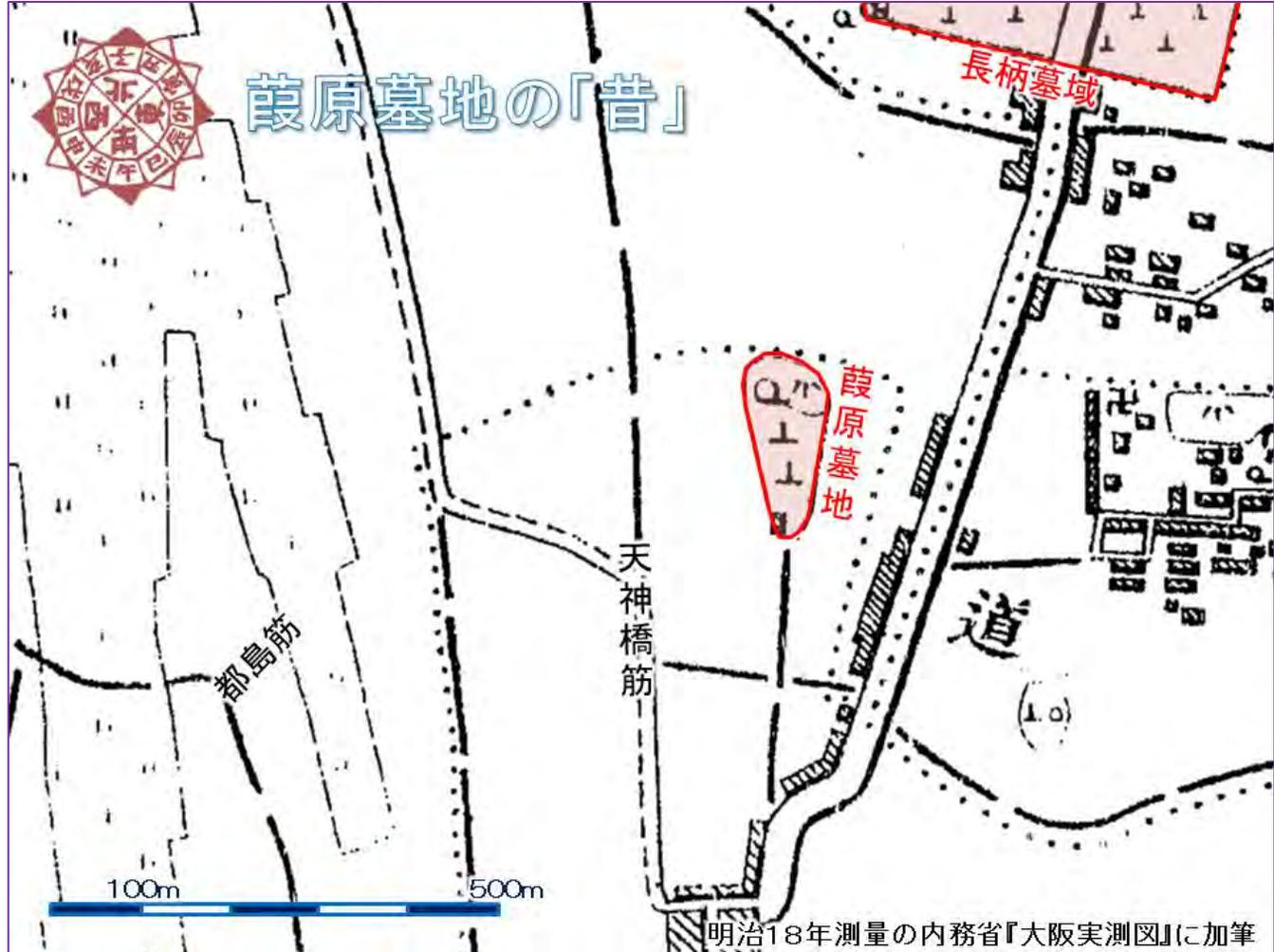
江戸末期に広さ六反六畝三步(約6500m²)を有していたが、現在は約1/4の約1500m²。

島左近は関が原での死亡説が有力であるが生き延びて京都立本寺で余生を過ごし寛永9年(1632年)に亡くなり同寺に墓もある。別説では大阪に落ち延び東成郡で亡くなり、娘は天満宮に嫁いだとの伝承がある。





葭原墓地の「昔」



明治18年測量の内務省『大阪実測図』に加筆



OpenStreetMapに加筆

旧葎原墓所関連案内



No.	旧史跡名	比定地の現在	概要
①	旧葎原墓域	市立住まい情報センター	天満之町家の墓域の一部の墓はここ葎(吉)原に移転統合させられた。
②	冲向地藏尊【現存】	太田診療所の南角地	堂宇内に中央に地藏菩薩、向かって左に観音菩薩、右に勢至菩薩が祀られている。
③	南無阿弥陀仏名号碑1		この六字名号の石碑は葎原墓地の無縁墓。「文政第十一戊子歳七月吉祥日建之」
④	南無阿弥陀仏名号碑2		この六字名号の石碑は葎原墓地の無縁墓。「維時文政十一戊子六月吉祥日」
⑤	行基菩薩開基地	大阪市設北霊園 (長柄墓地)	この葎原墓地は行基菩薩が開闢した七墓の一つとされる。「和合講」により建立。
⑥	行基菩薩石像		行基坐像の下の上台に「納」の一字が刻まれ、下台に施主名が列挙されている。
⑦	開基行基大菩薩		無縫塔(卵塔)形で行基菩薩が開闢したことに関与。「弘化」年号あり。
⑧	當基葬精霊		これは葎原墓地の無縁墓。裏面「安永二癸巳年三月」「葎原元祖講」により建立。

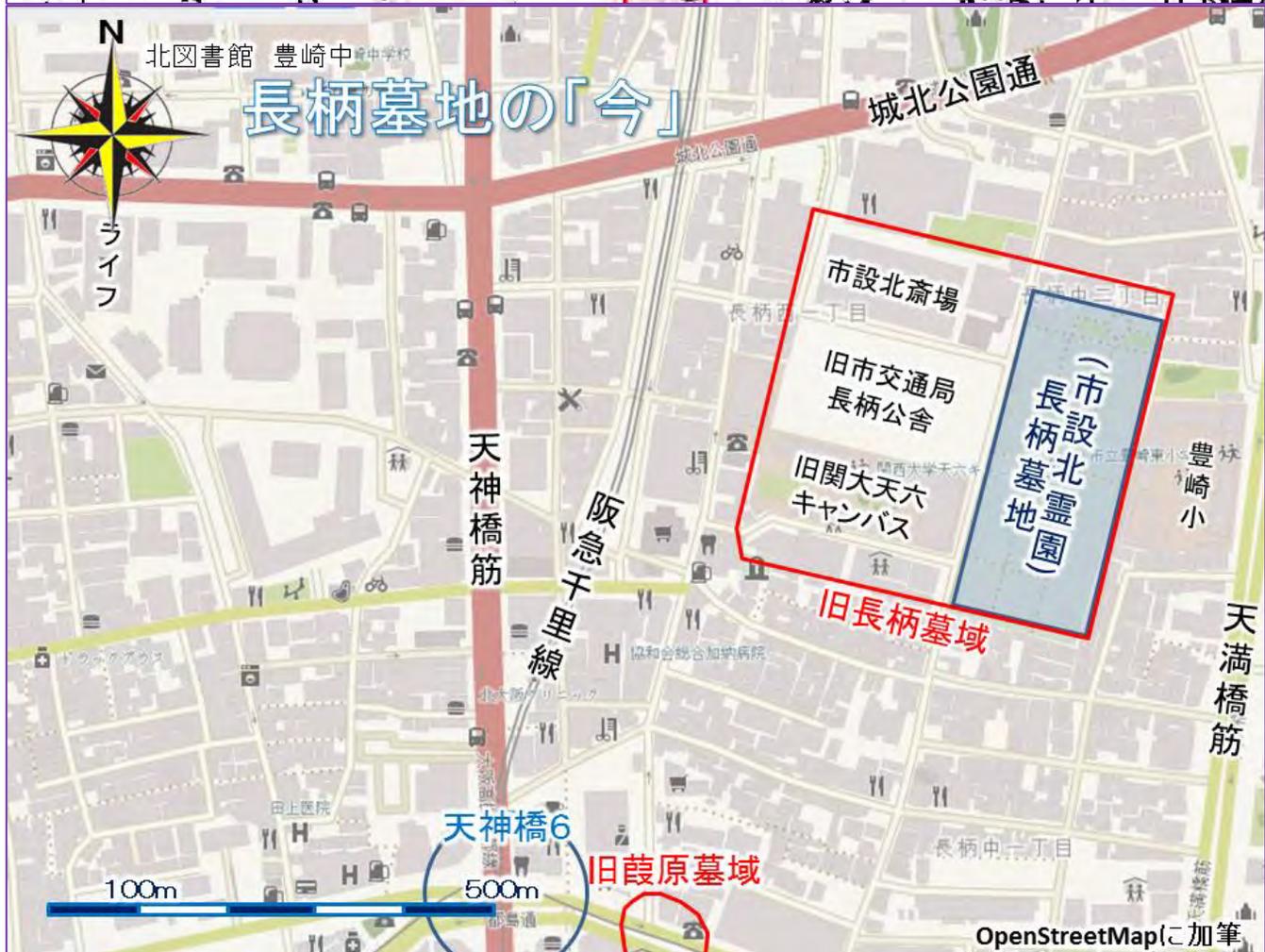
観音菩薩が蓮台を捧げ持つのに対して、勢至菩薩は合掌する姿で表される。

地藏菩薩を中尊とし、その左右に左脇侍(向かって右)の勢至菩薩と、右脇侍(向かって左)の観音菩薩を配する三尊形式であるが、中尊は通常、如来であるし脇侍も左右逆である。この事により、この3体のうち少なくともは地藏菩薩別に祀られていた可能性がある。また、冲向地藏尊前の解説には台を捧げ持つ観音菩薩を阿弥陀如来と記載しているが、これは明らかに間違いと思考する。



南浜墓地、葎原墓地、長柄墓地は近接している。

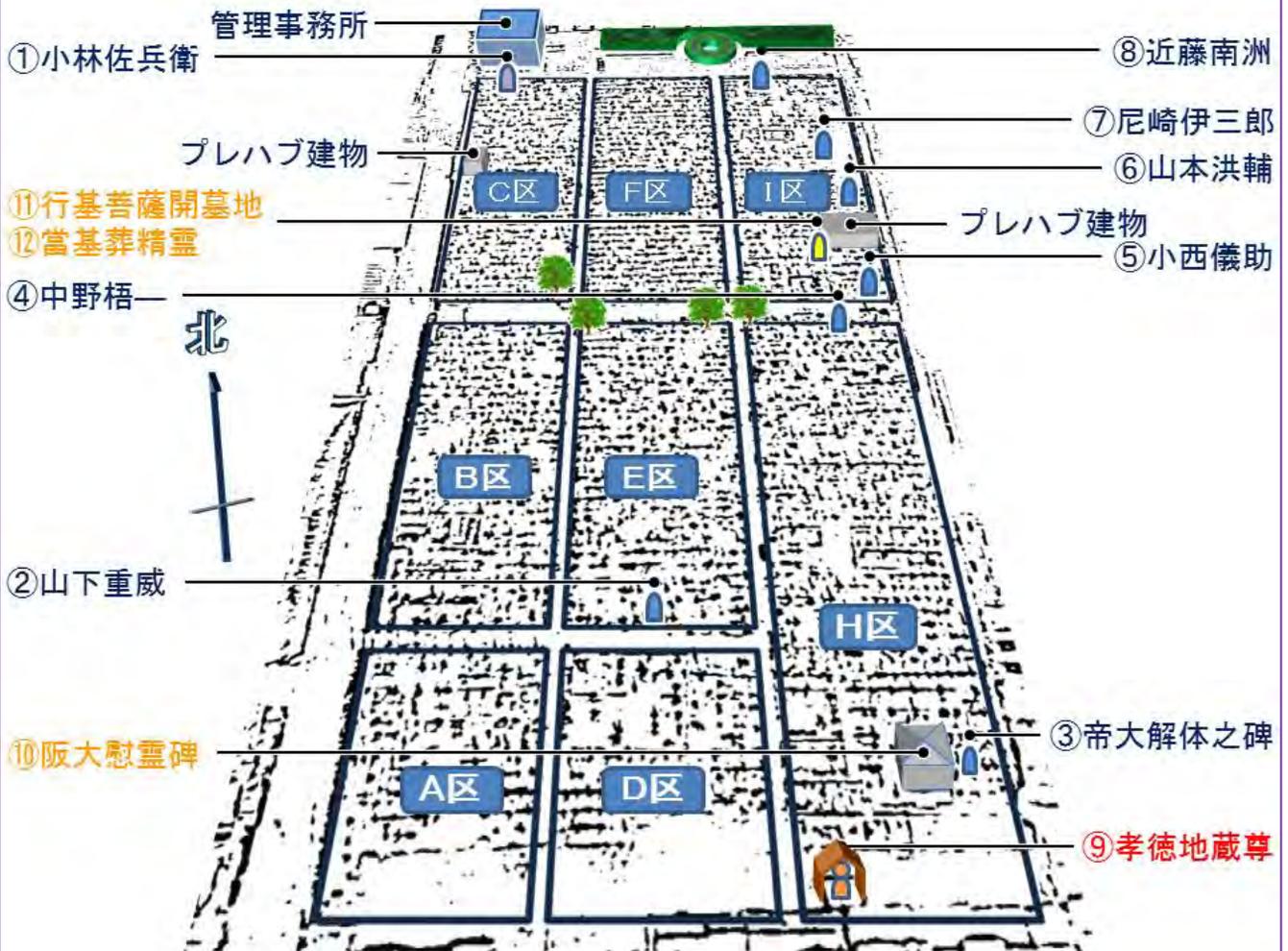
OpenStreetMapに加筆



長柄墓地(北霊園)著名人墓所案内図



No.	区画	故人名	墓碑銘	人物について	没年(99は不明)	享年
①	C区	小林 佐兵衛	小林佐兵衛墓	大坂最後の侍客、消防請負人、社会福祉事業者	1917(大正06)08.20	89
②	E区	山下 重威	山下重威之墓	日本の政治家。衆議院議員。3代目大阪市長	1919(大正08)10.18	71
③	H区	帝大解体之碑	大阪帝國大學解体之碑	大阪帝国大学医学部で医学に貢献された方の慰霊碑	1938(S13)11.建碑	--
④	I区	中野 梧一	従五位中野梧一之墓	幕臣。戊辰戦争で五稜郭にのち新政府出仕。大阪商法会議所副会頭	1883(明治16)09.19	42
⑤	I区(2代目)	小西 儀助	小西家累代之墓	小西義教の養子。薬種業小西屋(後の小西儀助商店、現コニシ)	1924(昭和19)09.01	88
⑥	I区	山本 洪輔	山本洪輔之墓	福井藩出身の医者。志士。亀山社中・海援隊隊士。	1899(明治32)10.16	57
⑦	I区	尼崎 伊三郎	贈中教正尼崎伊三郎墓	瀬戸内海航路を開拓を開拓した尼崎汽船を創業	1904(明治37)01.99	63
⑧	I区	近藤 南洲	南洲近藤先生墓	漢学者。伊予松山生。大阪で「風騷吟社」。「天満御文庫」蔵書献納	1922(大正11)10.14	72
⑨	H区	孝徳地蔵尊	孝徳地蔵尊	謂れ・由来の詳細不明。「源八 月年講」が建立		--
⑩	H区	阪大慰霊碑	慰霊碑	大阪大学医学部で医学に貢献された方の慰霊碑	2000(H12).03.建碑	--
⑪	I区	行基菩薩開墓地	行基菩薩開墓地	行基菩薩石像、開基行基大菩薩などと共に葭原墓地より移設		--
⑫	I区	當基葬精霊	當基葬精霊	葭原墓地の無縁墓。表面に「安永二癸巳年三月」「葭原元祖講」建立	1773(安永02)03.99	--



蒲生墓地の「昔」



蒲生墓地の「今」



蒲生墓所関連案内図



No.	旧史跡名	建立年月	概要
①	阿弥陀如来像	享保4(1719)年巳亥7月	阿弥陀堂内に祀られている阿弥陀如来座像。④の観音、⑤の勢至で阿弥陀三尊を形成。
②	棺台石(寝棺用)	享保4(1719)年巳亥7月	葬儀の際に極楽より迎えにくる②阿弥陀仏の前に設えられた台に棺を安置した。
③	棺台石(座棺用)	享保4(1719)年巳亥7月	阿弥陀堂の背後にあり厚さ1尺直径2尺5寸の葬儀の際に構儀の間に構儀を置く蓮華座の棺台
④	観音菩薩像(複製残片)	宝暦11(1761)年巳亥9月	蓮台を捧げ持つ観音菩薩。①阿弥陀仏と⑤勢至菩薩とで来迎の阿弥陀三尊となる。
⑤	勢至菩薩像(複製残片)	宝暦11(1761)年巳亥9月	合掌する姿の勢至菩薩。①阿弥陀仏と④観音菩薩とで来迎の阿弥陀三尊となる。
⑥	六地藏尊	文化13(1816)年子7月	地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天の六道の救済を行う地藏菩薩を並べ祀ったもの。
⑦	蒲生(延命)地藏尊	? 調査中	正面突当りの地藏堂内に安置。郷土研究「上方」56号によると靈験顕著な地藏として著名。
⑧	人ニハ一の墓	大正3(1914)年1月	大笹吉五郎が子孫に残した教訓墓。「人には辛抱が一」とよみ、合わせて「金」となる。

阿弥陀三尊は阿弥陀如来を中尊とし、その左右に左脇侍(向かって右)の勢至菩薩と、右脇侍(向かって左)の観音菩薩を配する三尊形式。
 六地藏の其々の名称は檀陀地藏、宝珠地藏、宝印地藏、持地藏、除蓋障地藏、日光地藏あるいは金剛願地藏、金剛宝地藏、金剛悲地藏、金剛幢地藏、放光王地藏、預天賀地藏と称する。像容は合掌のほか、蓮華、錫杖、香炉、幢、数珠、宝珠などを持物とする。
 現在、蒲生墓地は区画整理中で六地藏尊は入口通路東側に移転されている。



旧小橋墓所関連案内図その1

カットは俗名印亥部分より



旧小橋墓所関連案内図その2



No.	史跡名	概要
①	旧小橋墓地	東高津公園銘板
②	東高津公園景観	公園の北半分の高地部分と公園の北面の道路部分が旧小橋墓地。
③	東高津延命地藏堂	公園の低地部分から北面(高地部分;旧小橋墓地部分)を望む。
④	東高津延命地藏尊	公園中央西の堂内に墓地にあった3体の地蔵が鎮座。堂宇は比較的新しい。
⑤	傳光寺跡碑	堂内の3体の地蔵の内2体は古色があり時代経過を感じられる。
⑥	傳光寺跡遠景	先の戦災で被災した傳光寺、起善寺、本覚字は4寺合併し顯祥寺を創立。
⑦	傳光寺跡近景	大阪自動車整備専門学校南東の角地(約10m ²)に設けられている。
⑧	梅川・忠兵衛の墓	小橋墓地にあった右より福田金塘顕彰碑、開運地蔵、梅川・忠兵衛の墓。
⑨	梅忠ノ牌(碑)	南北に南から梅忠ノ牌、梅川と忠兵衛の供養碑が並んでいる。
⑩	桶屋抱梅川の墓	近松門左衛門の「冥土の飛脚」の遊女・梅川と飛脚宿の養子の忠兵衛の墓。
⑪	亀屋忠兵衛の墓	正面に戒名「梅室妙覚信女」、左側面に「俗名槌屋抱梅川」と刻まれている。
⑫	開運地蔵尊	正面に戒名「妙法頓覚利達」、左側面に「俗名亀屋忠兵衛(剥落多し)」。
⑬	司天生福田先生之碑	南面の丈六の地蔵座像。花立に為蓮休童子、水鉢に顯祥寺と印刻。
⑭	佛石 痔の石 碑	福田金塘(1806-1858)、和算家、土御門家の司天台の師範代。門下数千人。
⑮	佛石 痔の石	十萬寺山門の前にある「佛石 痔の石」の案内の石碑あり。
⑯	佛石 痔の石枕本尊	仏足石であることが忘れられ、この石に坐ると痔病に靈験ありと伝わる。
⑰	小橋墓地棺台佛石	棺台に置かれた佛の枕元にあたる位置の小さな仏龕の中に薬師如来を安置。
⑱	天龍院(無縁塔)	小橋墓地にあった棺を一時安置する蓮花形棺台。中央に釈迦の仏足を刻む。
⑲	大圓寺	ピラミッド状の無縁塔。十萬寺も旧小橋墓地より移設の改葬無縁塔があった。
⑳	元小橋無縁塔	大正3年の建碑年号と碑文内容から元は十萬寺にあったものと考えられる。
㉑	寂聞聖観律師墓碑	小橋墓地外の小墓地の14基を大正7年に元小橋無縁塔と題し移転した無縁塔。
		寂聞聖観(1745-1802)巡遊し独吟和歌一万塔を建立。比売許曾神社を比定。

⑰の「小橋墓地棺台佛石」は佛足歌碑も一緒であった。後世なぜか「痔の石」として信仰された。

⑨の墓は1710年(宝永7年)、大坂淡路屋の飛脚宿「亀屋」の養子忠兵衛が新町の遊女梅川に入れ込み、飛脚便の金で身請けし、大坂から逃走、大和で追っ手につかまり忠兵衛は死罪、梅川は入牢となった。この事件を元に近松門左衛門が、浄瑠璃「冥土の飛脚」を書き上げた。その約150年後の安政年間(1854~60)に「冥土の飛脚」の歌舞伎版「恋飛脚大和往来」が大ヒットし片岡仁左衛門が墓を建立した。



旧小橋墓地関連地図



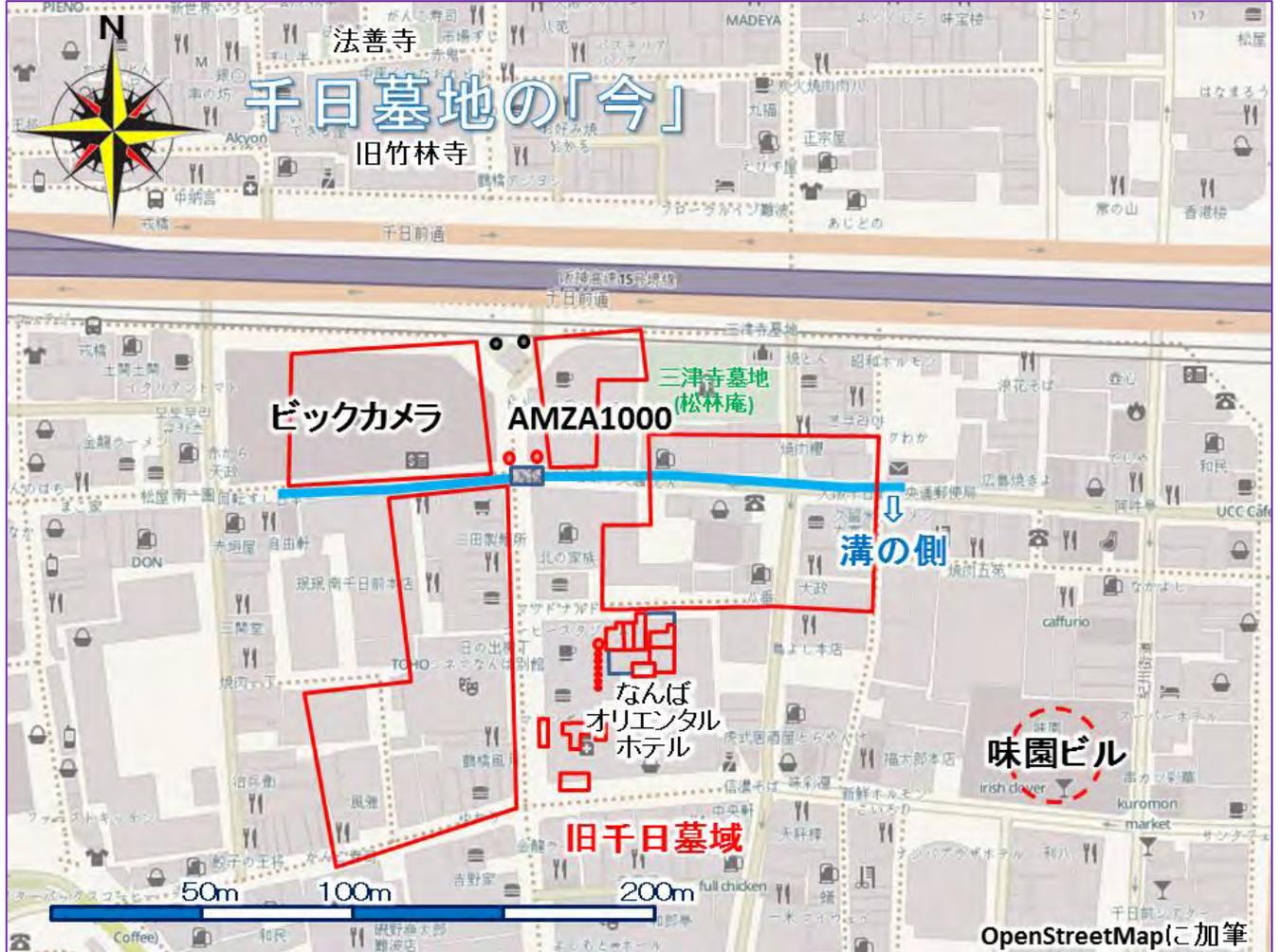
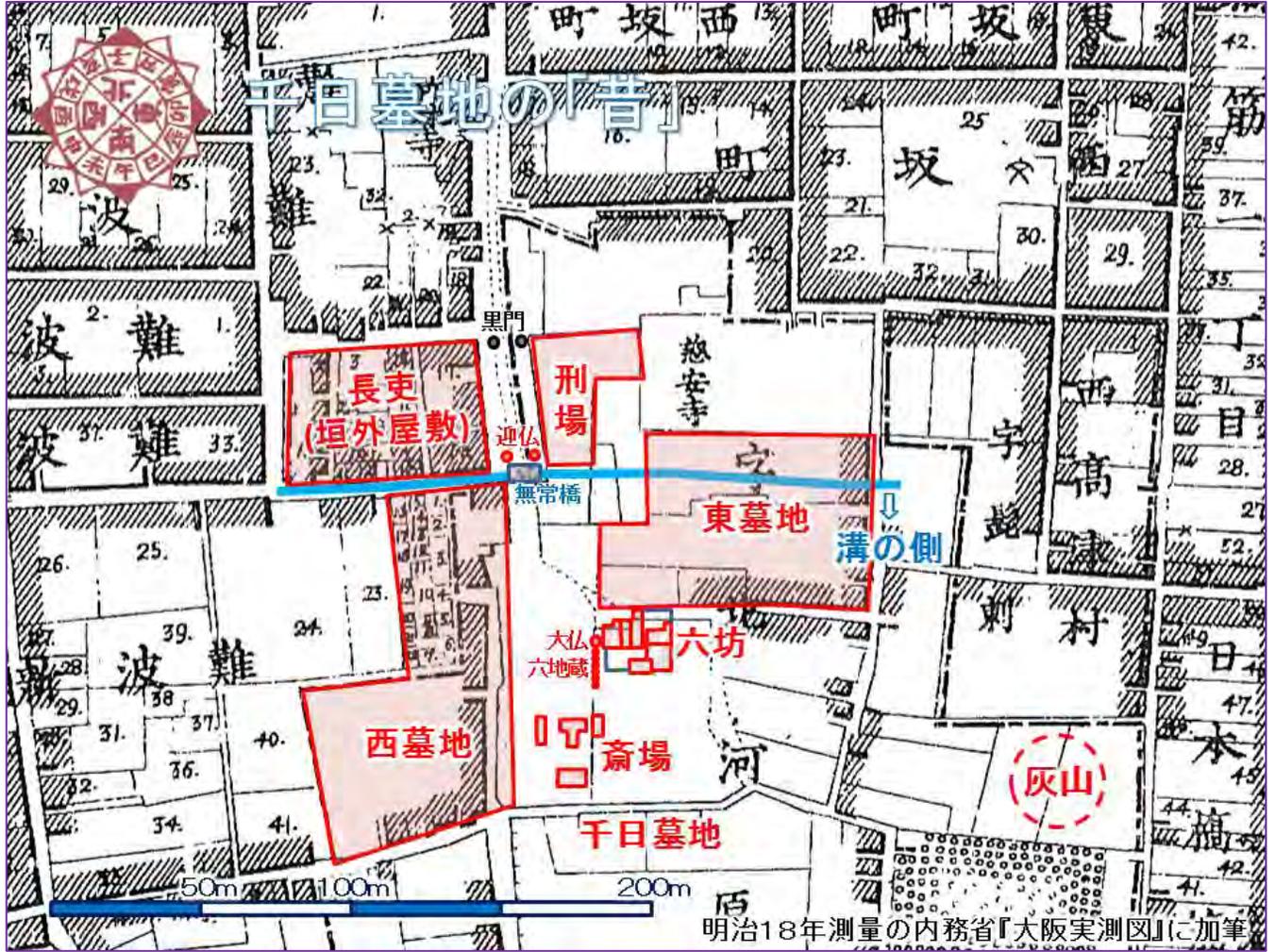
- ① 旧小橋墓地 (東高津公園)
- ② 傳光寺跡
- ③ 十萬寺
- ④ 天龍院
- ⑤ 大圓寺

真田山公園

高津高校

50m 100m 200m

OpenStreetMapに加筆



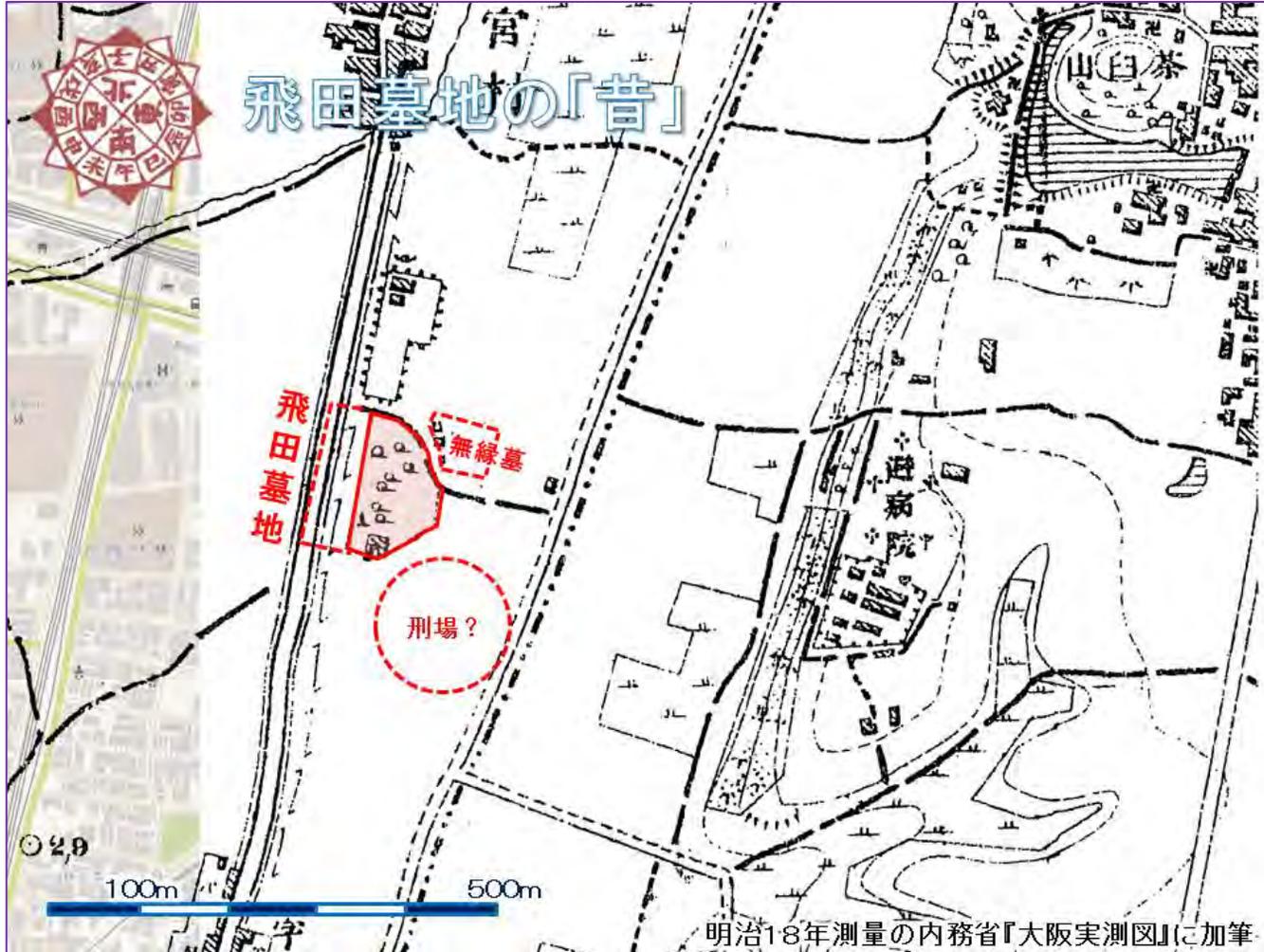
旧千日墓所関連比定地



No.	旧史跡名	比定地の現在	概要
①	天龍山法善寺	天龍山法善寺	浄土宗の寺で②竹林寺の北に隣接し存続。水掛不動尊が著名。千日回向興行。
②	松園山竹林寺	ラウンドワン千日前店	浄土宗の寺で刑場の北に隣接していた。天王寺区勝山に移転。千日回向興行。
③	千日前大門(俗称・黒門)	千日前通と千日前筋の交点	刑場や千日墓地の入口の門。左右の柱のみ(門扉は無し)とそれに続く板垣のみ
④	蓮登山自安寺	三津寺墓地・松林庵	日蓮宗の寺で刑場の東に隣接していた。中央区島之内に移転。
⑤	松林庵墓地		「従5位」の安井(成安)道頓・安井道卜の墓は1914年(大正3年)以降の追刻か。
⑥	刑場(斬首場)	千日前中央ビル (AMZA1000)	斬罪の仕置場で間口18間・奥行9間の広さ(⑦⑧を含む)で千日墓地の前にあった。
⑦	獄門台		斬首の首を晒す獄門台が北向きに二基東西に平行して並べられていた。
⑧	非人小屋		斬罪の執行や獄門台の管理を行う番人の詰所の番小屋。
⑨	東墓地		江戸前期、阿波座、三ッ寺、下難波、敷津、渡辺、津の各村の墓地を移転統合。
⑩	地藏堂		2間四方の堂宇で中にお迎え地藏が祀られていた。
⑪	千日寺一ツ鐘		1間四方の千日六坊の堂宇で夕闇が迫ると、「一ツ鐘」が諸行無常の響きを伝えた。
⑫	長史(垣外屋敷)		首切りその他不浄の処置を行う役人、死体処理を生業とした者の詰所であった。
⑬	西墓地	ビックカメラ	江戸前期、阿波座、三ッ寺、下難波、敷津、渡辺、津の各村の墓地をここに統合。
⑭	観音堂		⑬西墓地内にあり、正面4間×側面3間、庇1間の堂宇。本尊は観世音菩薩。
⑮	礼堂(らいどう)	オリエンタルホテル	⑩溝の側筋の無常橋を渡れずともお参りできるように設けられた礼拝のための堂。
⑯	迎佛		「大乘妙典」供養の迎佛1対。左脇侍の観世音菩薩立像、右脇侍の勢至菩薩立像。
⑰	無常橋(極楽橋)		⑩溝の側筋に架かる溝蓋状の橋で北の刑場と南の斎場をつなぐ橋。
⑱	溝の側筋	味園ビル	北の刑場と南の斎場を隔てる川とも溝ともいえない流れで南側を溝の側と呼称。
⑲	千日山安楽寺六坊		火葬場を支配した聖の庵として東、西、南、北、中、隅の坊の六坊があった。
⑳	大仏	オリエンタルホテル北裏	㉑六地藏より三回りくらい大きい地藏座像で左足を垂らし、右足は左足の膝の上。
㉑	六地藏		六坊の壁に沿いに南北に地藏立像3体ずつ、中央に地藏坐像1体の計7体。
㉒	祭場		葬儀場のエリアで東より施主堂、焼香堂、他衆堂の3堂宇が並んであった。
㉓	焼場		㉒祭場で葬儀が済むと、すぐ南にあるこの火屋の堂宇で火葬された。
㉔	灰山	㉓焼場で火葬された灰はこの場所にうす高く積まれた。	
㉕	榎神社	オリエンタルホテル北裏	大きな榎の脇にあった祠で稲荷が祀られていた。現在の㉑地藏尊。
㉖	榎地藏尊		㉕榎神社の幾度かの遷座で稲荷から地藏にお祀り対象が変化した。
㉗	榎龍王神社		榎の巳(白蛇)様を祀る。「水の神様」から「水商売の神様」として崇められている。

斬首場:斬罪の際の首切り場で、穴を掘った土壇場がありその前で執行人により首を切り落とす場所。

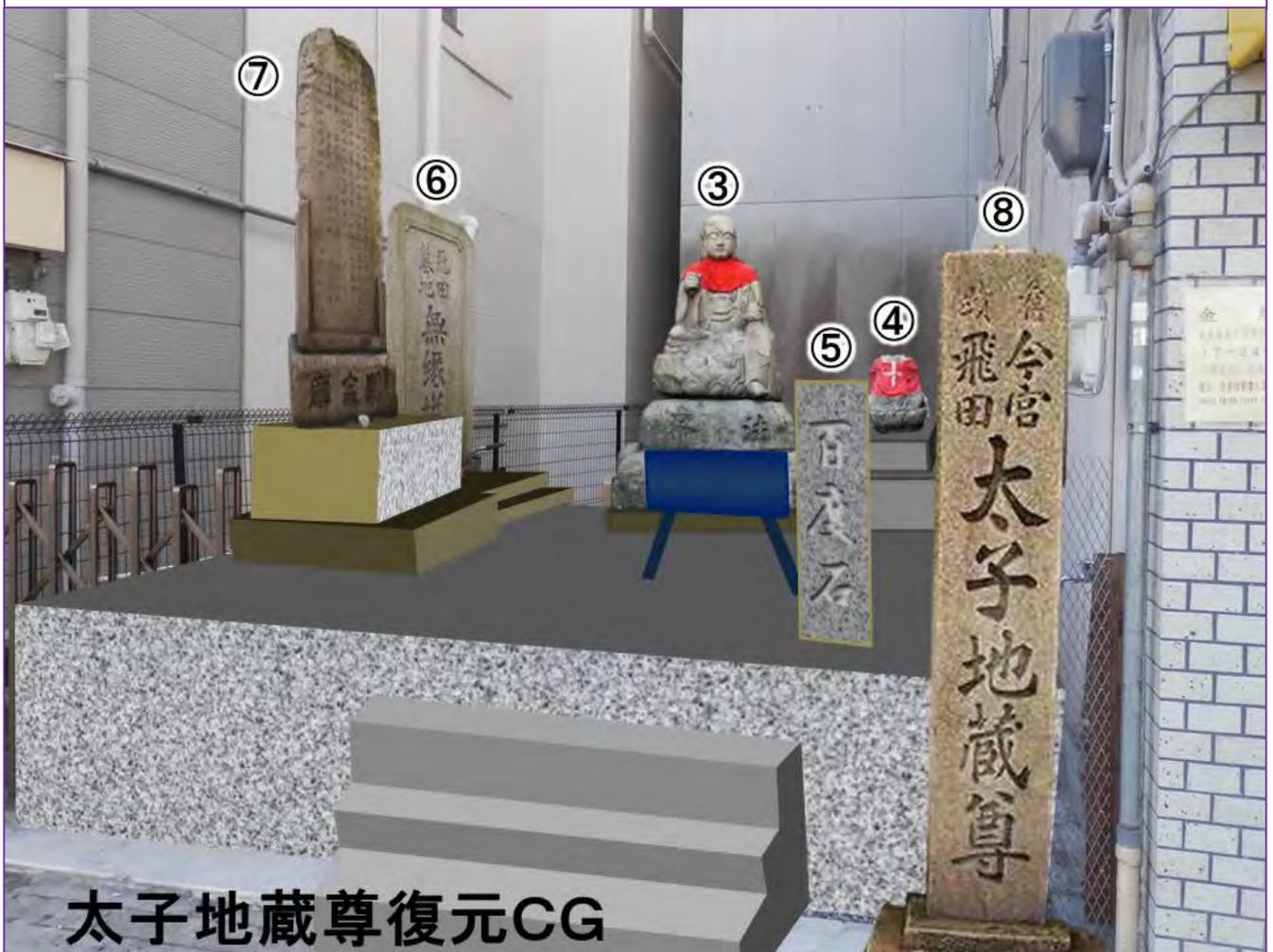
法善寺と竹林寺は共に千日回向を続けていたのでこのあたりが千日前と呼ばれた。



大坂七墓の内 旧飛田墓所関連案内図



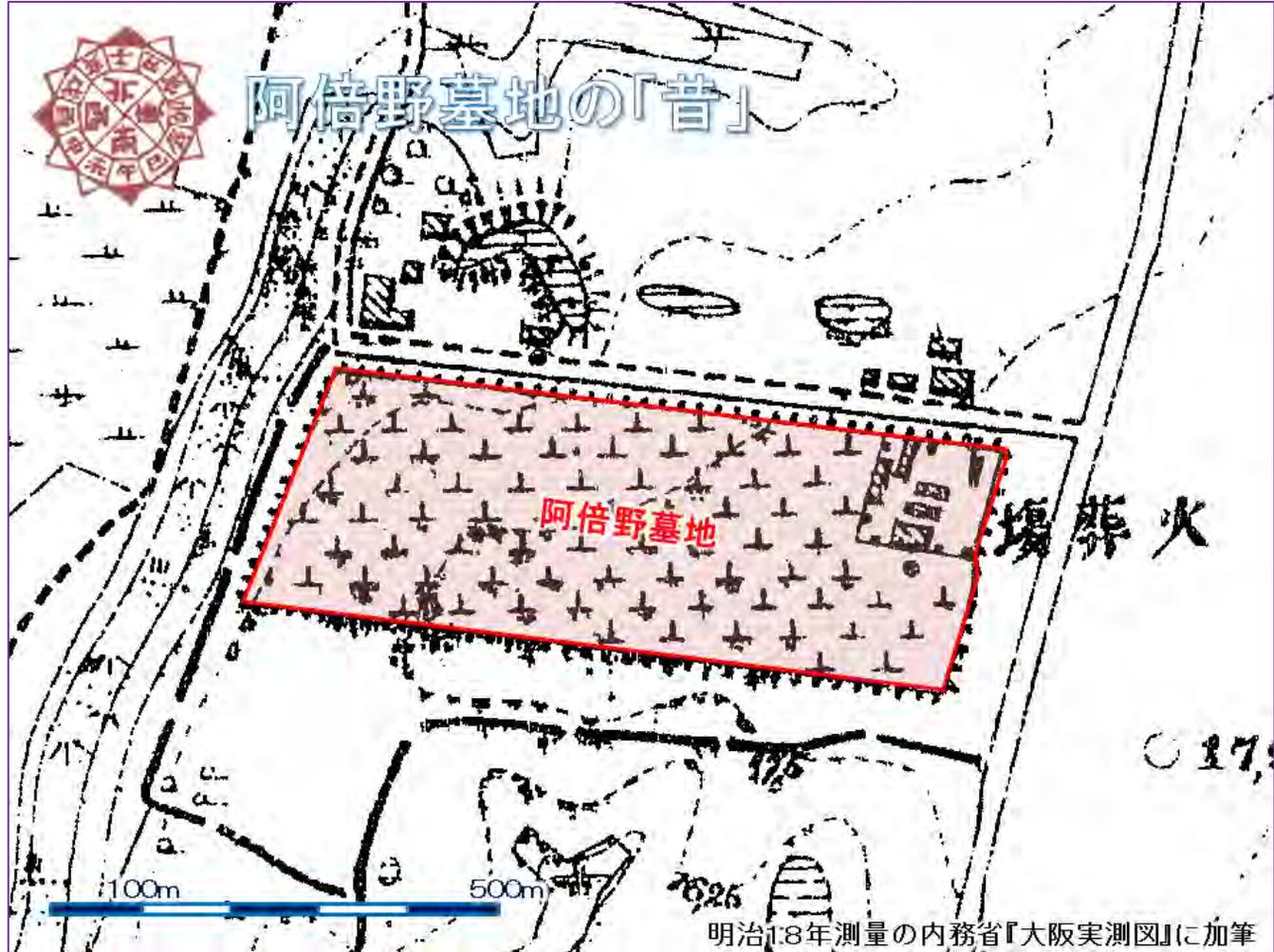
No.	史跡名	概要
①	現旧飛田墓地地藏尊景観	刑場の地藏堂にあった地藏(7尺)。1780年(寛政2年)建立。「太子」町名の起源。
②	復元旧飛田墓地地藏尊景観	大阪七墓の最古。元は『荒陵寺』(四天王寺)の墓地で、聖徳太子が造成指揮。
③	太子地藏尊	刑場の地藏堂にあった地藏(7尺)。1780年(寛政2年)建立。「太子」町名の起源。
④	首なし地藏	時代及び由来の詳細不詳
⑤	百度石	先の戦災で被災した傳光寺、起善寺、本覚字は3寺併し願祥寺を創立。
⑦	飛田墓地無縁塔	刑死の遺体は刑場側の飛田墓地に埋められ、それが無縁墓として残された。
⑧	元禄墓地修復顕彰碑	地藏堂にあった碑。1698年(元禄11年)建立。「大坂の陣で荒廃した墓地を整備」。
⑨	菅蹟今宮飛田太子地藏尊碑	元『荒陵寺』(四天王寺)の墓地で聖徳太子起源の大阪最古級の墓地。
⑩	南無妙法蓮華經法界萬靈	当題目の正面に「南無妙法蓮華經 法界萬靈(宝珠)」、右側面に「此宝塔は津の国葛田の刑場に有しを同志の人相議りて当寺に移しぬ 大正三年三月」と刻字。
⑩	木津の墓地	現大阪市設今宮霊園。大坂七墓の一つに加えられる場合あり。耕地整理で縮小。 太子墓地=飛田墓地(葛田、鷗田、鴉田とも)



太子地藏尊復元CG



阿倍野墓地の「昔」



阿倍野墓地の「今」



阿倍野墓地(大阪市営南霊園)

著名人墓所案内図No1



阿倍野墓地(大阪市営南霊園)

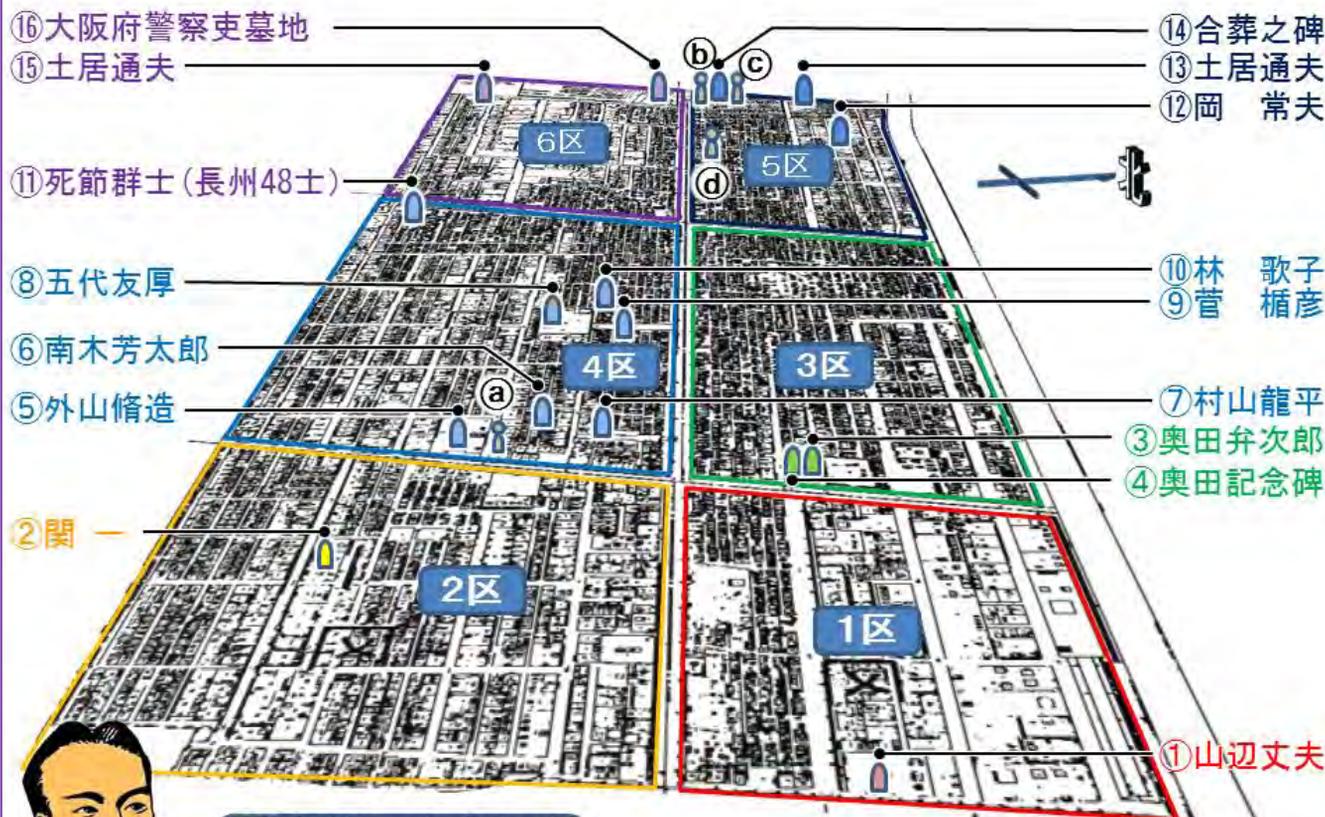
著名人墓所案内図No2



阿倍野墓地(大阪市営南霊園)

著名人墓所一覽表

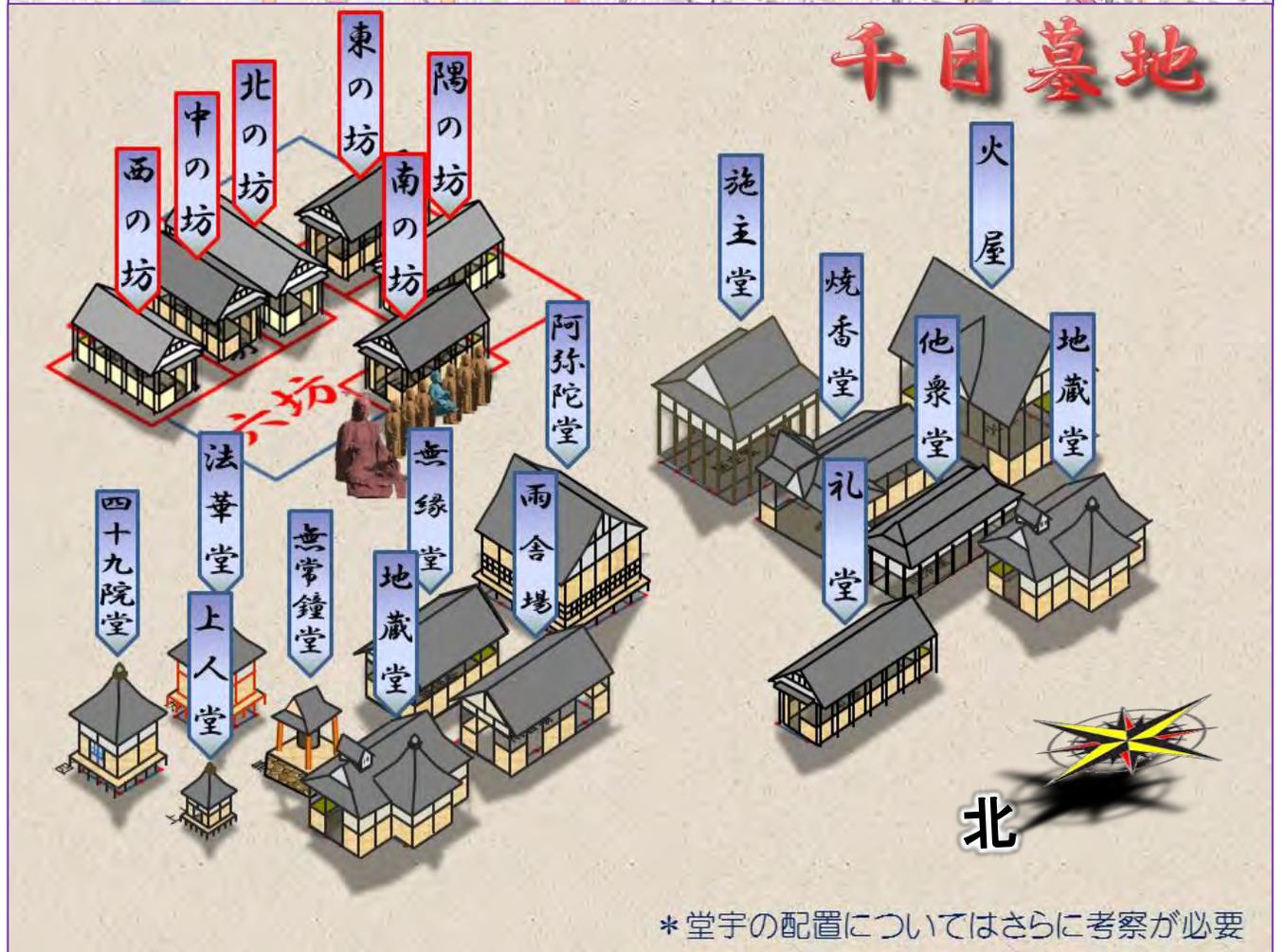
No.	区画	故人名	墓碑銘	職・業績	生年/建碑	没年	享年
1	1	山辺 丈夫	従五位山邊丈夫之墓	大阪紡績会社(現在の東洋紡の前身)社長	嘉永04.12.30	大正09.05.14	70
2	2	関 一	關家之墓	大阪市長、御堂筋、地下鉄、中央市場の整備・建設	明治06.09.26	昭和10.01.26	63
3	3	奥田 弁次郎	奥田辨次郎	興行主(千日前開発)	天保8.06.26	明治31.03.07	62
4	3	奥田弁次郎の記念碑	記念碑	旅先で客死、身寄りが無い、海外招請芸人の墓碑	明治28.03		
5	4	外山 脩造	外山脩造墓	実業家(日銀大阪支店長、阪神電鉄初代社長)	天保13.11.10	大正05.01.13	75
6	4	南木芳太郎	南木芳太郎之墓	昭和前の郷土史家。郷土研究会を創立し「上方」を創刊	明治15.01.08	昭和20.10.21	64
7	4	村山 龍平	村山龍平墓	大阪朝日新聞社社長(創立者)	嘉永03.04.03	昭和08.11.25	84
8	4	五代 友厚	従五位五代友厚墓	大阪商工会議所初代会頭、大阪株式取引所の設立	天保06.12.26	明治18.09.25	49
9	4	菅 楯彦	菅楯彦之墓	日本画家、大阪市長菅市民	明治11.03.04	昭和38.09.04	85
10	4	林 歌子	林歌子之墓	大阪婦人ホーム理事長、社会事業家	元治01.12.14	昭和21.03.24	83
11	4	長州藩志士の墓	死節群士之墓	長州藩四十八士、禁門の変(蛤御門の変)の敗残兵の墓	元治元年6月		
12	5	岡 常夫	岡常夫之墓	東洋紡績社長、遺贈金で綿業会館が開館	文久03.07.05	昭和02.01.22	64
13	5	合葬之碑	合葬之碑	阿倍野墓地で無縁になった基地の合祀	昭和26.03.04		
14	5	慰霊碑	慰霊碑	大阪市内の行き倒れや身寄りのない人を合祀	大正06.09.09		
15	6	土居 通夫	正五位土居通夫墓	大阪商工会議所会頭	天保08.04.21	大正06.09.09	81
16	6	大阪府警察吏墓地	明治21年6月に大阪府警察署員の殉職者及び傷病死者287柱を合祀	明治21.11			
a	4	延命相續地蔵尊	詳細不明				
b	5	迎え仏(左)	南平野町の惣講中が衆生を迷いから悟りの世界に導いてくれる仏教經典である「大乘妙典」一千部の供養のために建立した迎え仏1対。元千日三昧にあったものを明治初めに移設。左脇侍の観音菩薩立像、右脇侍の勢至菩薩立像。				
c	5	迎え仏(右)					
d	5	一願地藏菩薩	詳細不明				



ようおじゃったもんせ
ありがとうごわす

五代友厚

①～⑬の 是石造仏
⑭～⑯の 是墓石碑



* 堂宇の配置についてはさらに考察が必要

蒲生墓地



阿弥陀堂

人二ハ一の墓

六地藏

墓地西側より2016年4月撮影



六地藏の元の位置



蒲生墓地は現在区画整理中

墓地西側より2017年3月撮影

【長柄墓地】

葎原墓地



葎原墓地より移転した諸石碑



南無妙法蓮經法界萬靈

この面に「舊田の刑場」の印刻あり

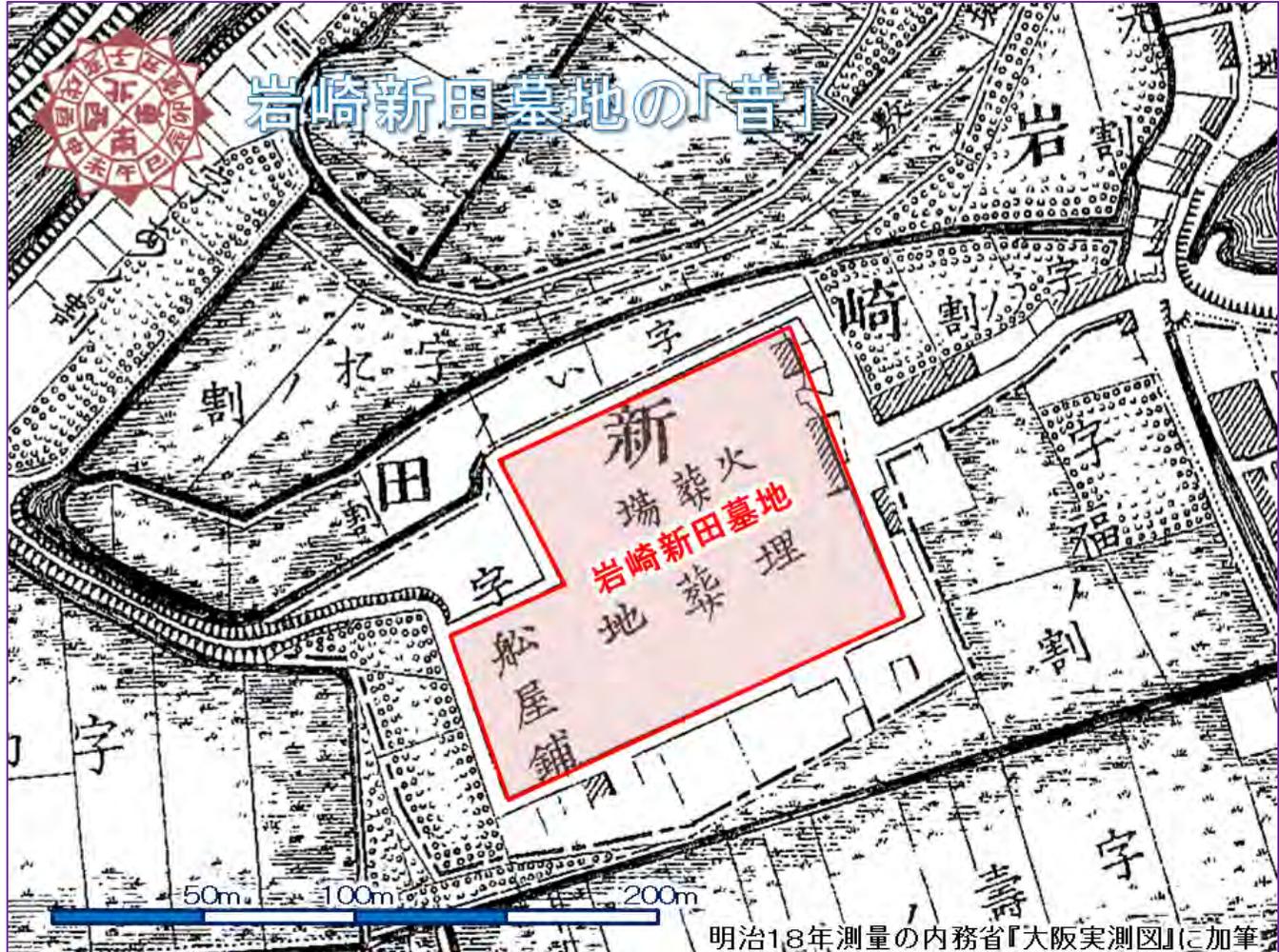


此宝塔は津の国舊田の刑場に有し同志の人相議りて当寺に移しぬ 大正三年三月

蒲生墓地は現在区画整理中

所在地: 東大阪市の宝樹寺

岩崎新田墓地の「昔」



明治18年測量の内務省『大阪実測図』に加筆

岩崎新田墓地の「今」



葎原墓地『冲向地蔵尊由来』について



【写真①】



【写真②】



【写真③】

天神橋筋六丁目にある住まい情報センターの東側の路地を南に入った太田診療所の南角地に『冲向地蔵尊』が祀られている。矢印の『冲向地蔵尊由来』説明プレート【写真①】によると「三尊像は、葎原墓地を守るための西の坊にお祀りされていた地蔵尊、阿弥陀如来、勢至菩薩」との趣旨の説明があります。中尊が地蔵尊（地蔵菩薩）で左脇侍（向かって右）に勢至菩薩、右脇侍（向かって左）に阿弥陀如来を配する三尊形式【写真②】ということになります。しかし、菩薩と如来では、如来は、悟りを開いた人、菩薩は、悟りを開くに至っていない修行中の者で、菩薩が如来を従えていることは考えられません。

阿弥陀如来とされる仏像は観音菩薩の誤りで、通常、観音菩薩は、往生者を迎えるための蓮台を捧げ持つ左脇侍、勢至菩薩は、形式の右脇侍となります。この組み合わせでお迎え仏となり、三尊形式とする場合は、地蔵菩薩ではなく阿弥陀如来を中尊とする阿弥陀三尊【写真③】となります。この場合、左脇侍が観音菩薩で、右脇侍が勢至菩薩が正式です（現在は逆に配置されています）。そのため、地蔵菩薩と観音菩薩・勢至菩薩は別々に祀られていたと思考いたします。

合掌している



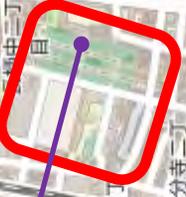
【写真③拡大】

蓮台を捧げ持つ



平成版大阪墓地巡り【北部】

長柄墓地
(市営北霊園)



旧葭原墓地



「行基菩薩開基地」碑など
南浜墓地北飛地



南浜墓地

源光寺
【「七はか道」碑】



阪急三番街
【北向地藏尊】



旧梅田墓地
(現梅田ランプ西)



了徳寺
(浦江聖天)



曾根崎署裏
【三で地藏】

大阪駅前第一ビル
(旧曾根崎墓)

【福永稻荷大明神】

太田診療所南
【沖向地藏尊】



平成版大阪墓地巡り【中部】

○ 蒲生墓地

JR京橋駅

JR大阪城公園駅

JR森之宮駅

JR玉造駅

JR鶴橋駅



大圓寺

十萬寺

傳光寺跡

旧小橋墓地

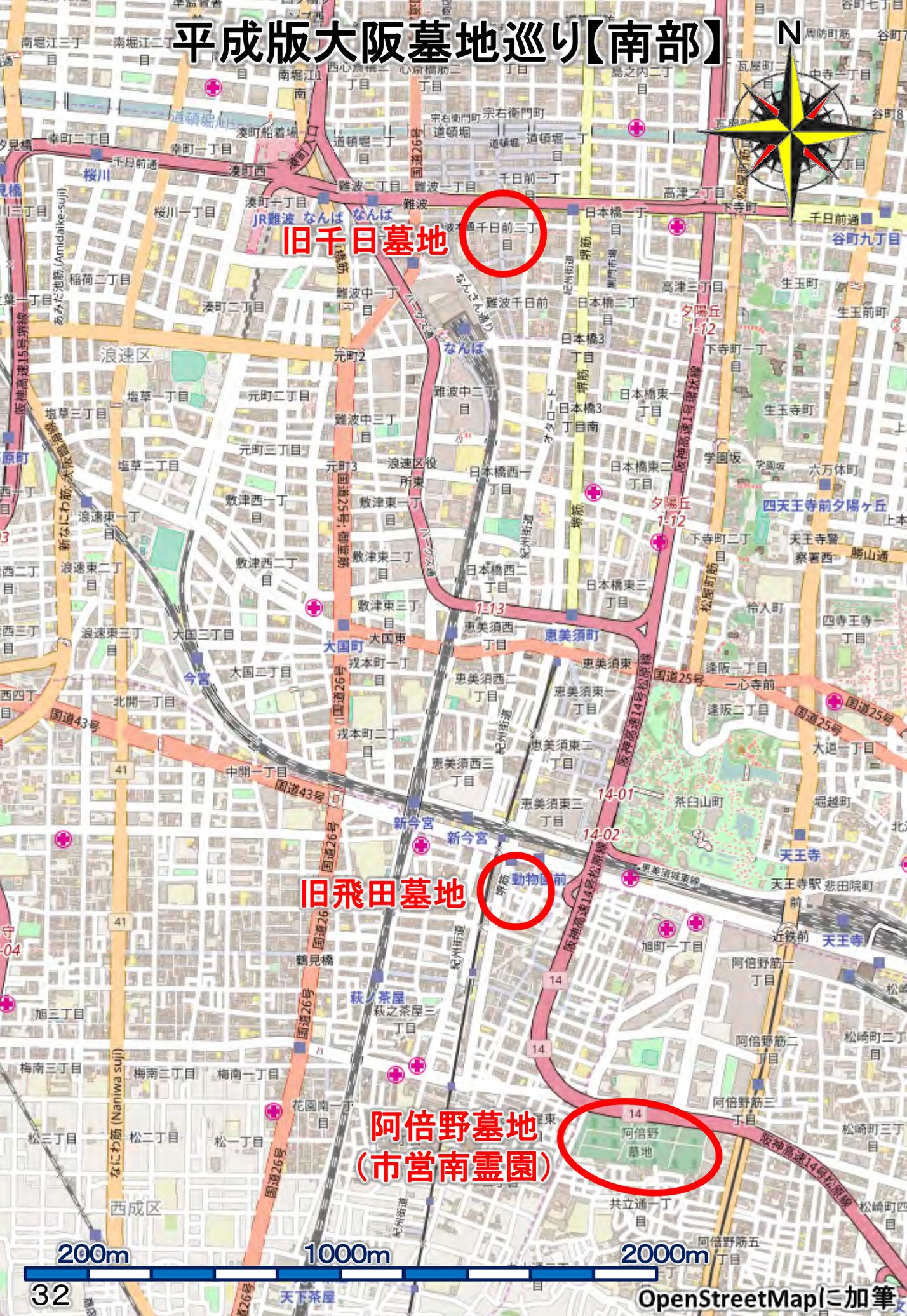
(現東高津公園)

200m

1000m

2000m

平成版大阪墓地巡り【南部】



旧千日墓地

旧飛田墓地

阿倍野墓地
(市営南霊園)

200m

1000m

2000m